



凄腕パイロットの技に酔い、秋空を彩るバルーンを仰ぐ 2015熱気球ホンダグランプリ第3戦一関・平泉 **バルーンフェスティバル2015**

秋のビッグイベントとして定着した一関・平泉バルーンフェスティバルは10月10日から12日まで、市内狐禅寺の水辺プラザを主会場に行われ、訪れた多くの観客が一関の空に飛ぶ熱気球に見入りました。今年、国内最高峰の競技大会「熱気球ホンダグランプリ」第3戦として開催。初日の10日には、午前6時30分と午後3時の2回、競技が行われました。午後の競技では、ホーンを合図に熱気球24機が一斉に空へ。色とりどりの熱気球が空を彩り、観客から拍手や歓声がおこりました。

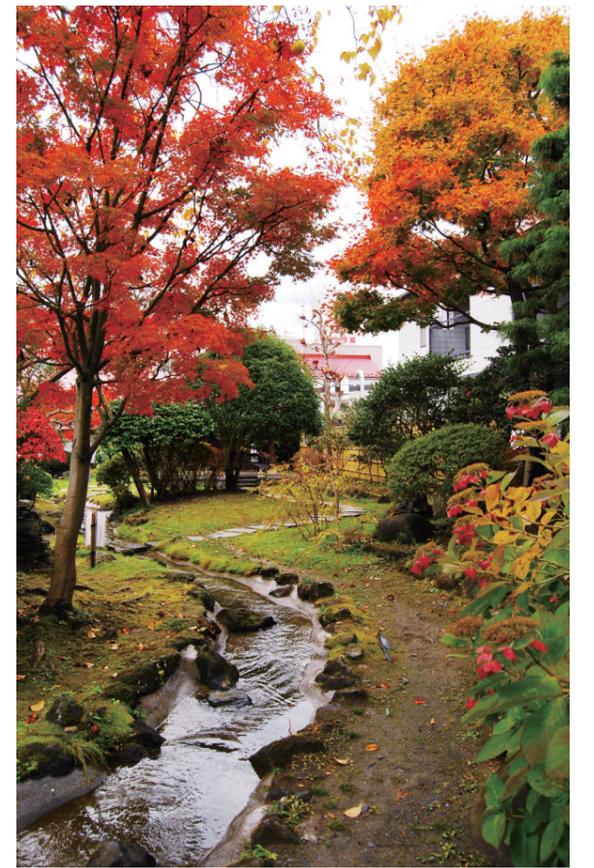
パイロットとして参加した市内舞川の佐藤裕夫さん(35)は「バルーンの魅力にとりつかれ、パイロットになって12年目になります。このフェスティバルをきっかけに、ライセンスをとる人が増えてくれれば」と期待していました。また、11日の午後6時から、磐井川緑地公園で熱気球をバーナーの光が夜空を彩る「バルーンイリュージョン」を開催。音楽に合わせて鮮やかな熱気球が暗闇を照らし出しました。観客らは、幻想的なショーにため息をもらし、パイロットに大きな拍手を送っていました。

1 飛び立つバルーンに手を振る観客 / 2 競技開始に備える色とりどりのバルーン / 3 係留体験で大勢が搭乗したオフィシャルバルーンの黄金の國一関・平泉号とASIMO / 4 「地上では見られない景色が魅力」と話す佐藤裕夫さん / 5 美しいバルーンイリュージョンに見入る観客 / 6 青空に飛ぶバルーン / 7 磐井川の水面に美しく映えたバルーンイリュージョン

第2特集

秋麗

いちのせき
あきうらら



色とりどりの紅葉が、街を飾る。味覚の秋、文化の秋、芸術の秋。いろいろな秋があるけれど、ここ一関は「祭り」に沸く。秋めく街並みを彩る祭りの数々。今年もまた、一関のめくるめく秋に酔う。

餅の聖地・一関で、全国各地の餅料理を楽しむ **全国ご当地もちサミット 2015 in一関**

「全国ご当地もちサミット2015in一関」は、10月10、11の両日、市総合体育館前庭で開かれました。市内外から大勢の来場者が詰めかけ、工夫を凝らした餅料理の食べ比べを楽しみました。

第4回目を数える今年、市内11団体を含む24店が出店。北は北海道名寄市、南は山梨県富士吉田市から自慢の味が集いました。開店と同時に、来場者はお目当ての店舗に押し寄せ、長蛇の列ができました。中には40分待ちの店舗も。来場者は、年に一度の祭典を堪能し、餅料理に舌鼓を打っていました。

また、市総合体育館内では、餅に関するクイズを解く「もち検定」が、特設ステージでは神楽やわんこダンスなどが行われ、会場を盛り上げていました。

宮城県加美町から家族4人で訪れた千葉孝昭さん(29)は、「ラジオ放送で知り、初めて参加しました。メニューも豊富で、餅好きの私にぴったり」とにっこり。藤沢町藤沢の千葉心晴くん(6つ)は「ノリ餅が好きです。今日は3つ以上は食べたい」と話していました。



1 午前中から各ブースは長蛇の列 / 2 餅に関するクイズ「もち検定」を実施 / 3 ステージで、もち食化やもち本膳をPRする「もちレジェンド」の佐藤育郎さん / 4 美女旅いわてのメンバーも料理に舌鼓 / 5 食べ比べを楽しむ千葉孝昭さん家族 / 6 今年のグランプリ山形県米沢市「そばや伝右エ門」の「もち天雑煮」。揚げたての餅が好評 / 7 小さな子供たちももちの食べ比べに夢中

たんすにしまっている着物を虫干し感覚で気軽に着る機会にと開かれた「千疋きもの物語」(千疋着物虫干し会主催)は10月10日、千疋・本町通りで開かれました。

色とりどりの着物をまとい、訪れた参加者は酒のくら交流施設で着付舞を鑑賞。その後、町内を馬車で散策しました。日野屋別邸では、琴の演奏会を開催。細やかに手入れされた日本庭園を眺めながら、美しい琴の音に耳を傾けました。

同町の金野栄子さん(61)は「初めて参加しました。和文化を堪能した一日。地元の良さを再発見できました」とにっこり。参加者は、和文化と千疋の風情ある街並みを堪能していました。

1 琴の演奏会が行われた日野屋別邸。庭園では、写真撮影も行われた / 2 馬車が風情ある街並みを引き立てる



着物、舞踊、琴—和文化を堪能する
千疋きもの物語